

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会
平成14(2002)年度第2回相互協力委員会議事録

日時：2002年5月15日(水)午後1時～午後5時

場所：中部学院大学 研究室棟 会議室

出席者：長坂功(愛知大学) 足立祐輔(愛知学院大学) 加藤直美(愛知工業大学)
中上恵子(愛知みずほ大学) 酒井麻里(金城学院大学) 浜野五鈴(鈴鹿医療科学
大学) 疋田幸世(中部学院大学) 加藤富美(南山大学) 石川宗臣(日本福祉大
学) 蓑島智子(中部大学) 計10名

欠席者：小川光男(中京大学)

記録：加藤富美(南山大学)

【報告事項】

委員長により5月7日(火)開催の2002年度第1回東海地区協議会常任幹事会の報告が下記の通り行われた。

1. 2002年度の事業計画(案)について
上記について承認された。また、OPAC 横断検索等についてのアンケートを加盟館宛に発送したこと、レファレンス・コンソーシアム関連データベースを、7月下旬頃、東海地区協議会のサーバー上に移行予定であるとの報告が委員長よりあった。
2. 2002年度予算(案)について
研修会事業費について20,000円の増額が認められた。このことについて、実務担当者研修会開催後の12月の常任幹事会で簡単な支出報告を行なうこととする。
3. 今年度より「課長・事務長懇話会(仮称)」の開催が予定されている。5月22日(水)の東海地区協議会総会で承認されれば、年間2回程度の開催が予定されており、図書館間の事務責任者による実質的な意見交換の場となる。

【協議事項】

2002年度の活動計画に基づいて、活動内容について協議した。

1. 次回委員会の開催日を7月18日(木)とする。また今後の合同委員会の議事録については、次回合同委員会から情報化委員会と同一のものとする。その手順については情報化委員長と確認の上、委員長が委員に報告する。
2. OPACの横断検索/相互貸借物流アンケートの集計について
アンケート調査表に基づき、集計について審議した。
 - 1)コメントは数値結果とは別に集約する。
 - 2)項目のA,Bなどの表記を質問項目を具体的に表した語句に変更する。
 - 3)集約についての詳細はワーキンググループで再度検討し、12月の幹事会を目途に報告資料を作成する。
 - 4)アンケートの集計結果の一部は、8月の実務担当者研修会の活動報告内に含める。
3. データベース共同トライアルについて
共同トライアル予定業者より、トライアル対象となるDBの案内があったことが委員長から報告された。

丸善 Gale

EBSCO Japan EBSCO (販売店はノウカまたは極東書店)

紀伊国屋書店 現在のところ連絡無し

4. 東海地区協議会ホームページの充実について

上記について協議をおこない、下記の意見が出された。

- 1) ILL に関する Q&A、マナー集などを掲載してはどうだろうか。ただし、回答や事例について統一した見解がとれないなど作成や維持が困難なことが予想される。
- 2) まずは実務レベルにホームページの利用が浸透するように広報することが必要ではないか。
- 3) 一般開放についての状況は刻々と変化しており、一覧情報は有効であるが維持が困難である。各加盟館が自館で情報をアップできるような仕組みができればよい。
- 4) リンク集については、まずは現在リンクが切れている等の状況を調査し、その上で更新するのか、主題分野等を整理して更新するのか等を検討する必要がある。¹

1 4)についてはリンク切れの調査を情報化委員会に依頼することとする。

5. 相互協力実務担当者研修会(案)について

上記について、先回委員会以降ワーキンググループで進めた内容について報告があった。

- 1) 講師候補者の森よしこ氏は、仕事の関係上参加が困難とのことで正式にお断りの連絡があった。次候補者の名古屋経済大学助教授(秘書学)の水口美知子氏にお引き受けいただくことができた。(中上委員報告)
講演の内容についてはMLで情報提供をすること。
- 2) 日外アソシエーツの青木氏からはこちらの希望の内容で業者デモに参加できるとの連絡があった。5～6月中に名古屋へ赴く予定があり、その際に詳細を詰めることにする。(加藤(富)委員報告)
- 3) 初日プログラムの業者デモの内容により必要となったPC実習室は15:00～17:00の時間帯で予約することができた。また当日の昼食については中京大学で弁当・お茶を手配して頂くこととした。(長坂委員長報告)

次に各分科会担当毎に分かれ、分科会の担当や進行等について協議した。

- 1) A 分科会「図書館員のための IT 講座：情報技術のスキルアップをめざして」

司会：浜野、記録：加藤(直)、蓑島 全体会報告：参加者

内容：

情報リテラシー教育支援をおこなうためにも、図書館員はさまざまな情報メディアを活用することが求められている。そのような状況の中、図書館員は IT について新しい技術を習得したり、また日々生じる疑問やトラブルにも対処していかななくてはならない。そこで A 分科会では従来の事例報告は行わず、IT について熟知した講師に講習を開いていただき、参加者が今後情報リテラシー教育支援に活用できるような IT の活用術を学んだり、日ごろの業務でおこった疑問やトラブルを解消できるような分科会にしたい。

プログラムとしては研修会を 2 時間、質疑応答を 1 時間とする。講師は IT に熟知している図書館員の方をお願いする。また電子ジャーナルのことまでになると、業者も講師としてお願いしてはどうかという話も出ている。また事前にアンケートで参加者の抱えている問題、質問などを把握して、当日の進行に生かしたい。

2)B 分科会「インタビュープロセスとレファレンス基本ツールについて」

司会：酒井、記録：足立

内容：

事例報告 紙（冊子体）のツールについて 参加者の中から1名(20分)

問題提起 レファレンスにおけるインタビューについて 足立、長坂(各10分)

・事前に簡単な調査票を配布し、各館のレファレンスの概要、質問を記入してもらう。

・質問に対しては、分科会の中で参加者同士で討議してもらう。

・近年レファレンスはインターネットに頼りがちであるが、図書館員として基本的なツール（紙・冊子体）を使いこなせることは必須であると考え、基本ツールの重要性について参加者が再確認できるようにしたい。

・同時に、利用者からうまく要求や目的をひき出すインタビュー能力も重要であると考え、委員からの問題提起を発端に、参加者が実務での体験や感じていることを発言できるようにしたい。

3)C 分科会「利用者教育：参加者のモチベーションを高めるために」

司会：小川、記録：疋田、中上

内容：

利用者教育はほぼ定着している状況を踏まえ、さらにもう一步先へ進めていくために、実施上の問題点・課題を考えていく。

事例報告 日本福祉大学：学生補助員を使った利用教育

愛知淑徳大学：(具体的なテーマは承諾を受けた時点で決定)

もう1館への依頼を検討中

実務担当者研修会全体の役割分担を決定した。

総務・諸連絡(2名)：長坂、小川

受付・会計(3名)：中上、浜野、蓑島

全体会司会(1名)：加藤(富)

交流会進行(1名)：足立

全体会記録(2名)：石川、酒井

写真(1名)：疋田

今後のスケジュールについて確認した。

・ワーキンググループ打合わせ 5月29日(水)

・開催案内文書の原稿締切り 6月8日(土)

・開催文書発送 6月14日(金)

・参加申込み締切り 7月1日(月)

・第3回相互協力委員会 7月18日(木)

その他

加藤(富)委員により南山大学学園研修センターの予約・キャンセル等の手続きにつき確認し報告することとなった。

以上